

令和7年度 獨協埼玉高等学校 学校自己評価 シート

目指す学校像	多様かつハイレベルな進路目標をめざす集団づくりと併せ、豊かな環境のもと、「自ら考え、判断し、行動することのできる若者」を育てる。
重点目標	1. 教育活動を通じて、「自ら考え、判断し、行動することのできる若者」を育てる。 2. 多様な進路目標の実現に向けて努力する。 3. 学校生活の安全性と快適性を向上させるとともに、安心・安全な学校づくりを進める。 4. 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を進める。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標					年 度 評 価（3月31日 現在）		実施日 令和8年4月5日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○ 自ら考え、判断し、行動することができる若者を育てるために、積極的に学ぶ姿勢を促すとともに、自ら考え、表現する活動の機会の保障を十分に行う必要がある。	○ 生徒が主体的・能動的に学習や学校行事、部活動に取り組む態度を育てる。 ○ 授業の質の向上を図り、生徒の興味・関心を育む。	○ 生徒が主体的・能動的に学習・学校行事・部活動に取り組むことができるように、バランスの取れた教育活動を展開する。 ○ より質の高い授業の改善を目指して、授業アンケートを実施するとともに、研修の機会を設け、授業の質の向上に努める。	○ 主体的・能動的学習につながるような授業実践や自ら考え、表現する活動の機会の提供を行ったか。 ○ 授業アンケートの結果を活かした授業の質の向上が図れたか。 ○ 教員間の授業見学や外部での研修会に積極的に参加したか。	○ 総合的な探究の時間において、生徒が主体的に学び、発表する機会として、学年でコンテストを実施した。 ○ 委員会活動が活発になり、体育祭・学校祭など学校行事に主体的・能動的に取り組む生徒が増えている。 ○ 授業アンケート実施し、教科別に課題を確認し、改善に向けて活用した。	B A B	○ 探究的な活動実践例を教員間で共有するだけではなく、外部業者を活用することで、生徒が主体的に学ぶ環境づくりをさらに進めていく。 ○ 生徒が主体的・能動的に学校行事、部活動に取り組むことができる場をさらに確保する。 ○ 教員間の授業見学や外部での研修に積極的に参加するなど、さらに授業の質の向上を図る努力を継続する必要がある。
2	○ 多様な進路選択を可能にするため、より質の高い学習と自発的かつ継続的学習を促す授業展開及び環境整備を推し進める必要がある。	○ 大学入試を見据えた計画的な授業展開や生徒面談、講習・進路ガイダンス等の充実を図る。 ○ 英語4技能向上への取り組みの充実を図る。 ○ ICTを活用した教育実践を積極的に行う。	○ 進路指導計画に基づいて、生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 ○ 併設校との連携など、生徒一人ひとりが学びに対する興味・関心を深めることができるような機会を提供する。 ○ 難関大学の入試に対応した授業や講習を積極的に行う。 ○ 放課後自習教室(SLC)を活用し、学習習慣の確立に努める。 ○ 英語外部試験を積極的に受験させるとともに、GSプログラムや国際交流プログラムなどを通じて、4技能の向上を図る。 ○ ICT機器を積極的に活用し、主体的・共同的な学びの場や探究活動につながる深い学びの指導と工夫を行う。	○ 進路指導計画を共有し、多様な進路選択を可能にするための授業を実践したか。 ○ 生徒一人ひとりが学びに対する興味・関心を深めることができるような機会を提供することができたか。 ○ 難関大学の入試に対応した授業や講習および発展的学習の機会の提供を行ったか。 ○ 放課後自習教室(SLC)を活用し、学習習慣の確立に努めることができたか。 ○ 英語外部試験や国際交流プログラムを通じて、4技能の向上を図るとともに、外国語運用能力を身につけたか。 ○ ICTの特性を生かした学びが実践できたか。	○ 多様な進路選択を可能にするため、その基礎学力を定着させる授業を実践した。 ○ 大学教授による出張講義、大学訪問などを実施し、多様な進路選択を可能にするための情報共有を行った。 ○ 難関上位大学と中堅大学等のグレード別対策講習を、長期休暇に実施した。 ○ 自習室、自習スペースに加え、放課後自習教室(SLC)を活用した学習習慣の確立に努める生徒が増えた。 ○ 高1対象のGSプログラム、国際交流プログラムを通じて4技能の向上を図った生徒が、積極的に英語外部試験を受験した。 ○ Chromebookを1人1台所持し、情報共有、授業でICTを活用した活動が積極的に行われた。また、ICT支援員からの助言により、教員のICT活用技能も向上した。	A A A A B	○ 多様化する入試に対応できるように、3年間を見据えた進路指導計画を共有し、段階に応じた目標設定やそれを具現化するための具体的な授業実践、グレード別対策講習を実施していく。 ○ 知的好奇心を刺激することで、主体的な学びにつながるような機会を設けていく。 ○ 面談等を通じて生徒の学習意欲が継続できるように声がけをするとともに、SLCと連携し、生徒の学習習慣の確立に努めたい。 ○ GSプログラム、国際交流プログラム、併設校である獨協大学との高大連携プログラムを活用し、さらに4技能の向上を図る生徒を増やしていきたい。 ○ ICTの特性を生かした深い学びが実践できるように、外部の研修等にも積極的に参加していくような声がけを行っていく必要がある。
3	○ 生徒が安心安全に生活できるような環境づくりを継続して推進する必要がある。 ○ 登下校時の安全とマナーの向上を図る必要がある。	○ 生徒自ら安心安全な学校生活を送ることができるような環境づくりを続ける。 ○ 地震発生に備えた体制づくりを続ける。 ○ 携帯マナー教室などを通じて、メディアリテラシーの向上に努める。 ○ 登下校時の安全とマナーの向上を図るため、他者に配慮した行動がとれるよう、道徳心を育む。	○ 挨拶の励行、SNSの安全な利用、いじめ防止等、生徒が安心安全に学校生活を送ることができるようにする。 ○ AED講習会を実施する。 ○ 地震発生に備え、避難訓練を実施し、防災意識を高めるとともに、食糧備蓄を維持する。 ○ 携帯マナー教室を実施し、SNSなどの安心安全な利用法を理解させる。 ○ バスや電車など公共の場でのマナー向上に努める。	○ 生徒指導を通じて、安心安全に学校生活を送ることができたか。 ○ AED講習会を実施できたか。 ○ 避難訓練を実施し、3日分の食料・飲料水の備蓄を維持したか。 ○ 新入生を対象に携帯マナー教室を実施したか。また、情報モラル教育をおこなうことができたか。 ○ バス乗車指導、学校周辺での登下校指導を継続したか。また、バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。	○ 挨拶の励行、SNSの安全な利用について、さまざまな機会に声がけをした。 ○ 2学年、教員対象AED講習会を実施した。 ○ 全校での避難訓練を実施し、生徒だけではなく、教職員の防災意識の向上に努めた。 ○ 新入生オリエンテーションとして、携帯マナー教室を実施した。 ○ バスや電車内、登下校に関するマナーについては、苦情は減少傾向にあるが、継続して指導を行う状況にある	B A A B B	○ 挨拶の励行、SNSの安全な利用について、保護者との連携を深め、さらに生徒に声がけをしていく必要がある。 ○ AED講習会、全校での避難訓練を実施し、生徒だけではなく、教職員の防災意識の向上にさらに努めていきたい。 ○ 携帯マナー教室を実施するだけではなく、情報モラル教育を継続して行う必要がある。 ○ 通学路での下校指導、通学時のマナーについて、公共の場でのマナーについて考える場をつくり、行動につなげていく指導を継続していく必要がある
4	○ 本校の特色ある教育活動の成果を、さまざまな手段を用いて発信していくことが必要である。	○ 学校の魅力を伝える機会を増やすため、積極的な情報発信を行う。	○ 学校の教育活動を、学校説明会や学校HP、PTAや同窓会の広報誌等を活用して発信する。 ○ 獨協コースの取り組みを、学校内外に効果的に広報する。	○ 学校説明会や外部での説明会を通じて、学校の教育活動を発信できたか。 ○ HP更新によりタイムリーな情報発信を行うことができたか。 ○ PTA、同窓会と連携して広報活動を行うことができたか。 ○ 獨協コースの広報活動を積極的に行うことができたか。	○ 学校説明会等で、生徒によるプレゼンテーションなどにより発信できた。 ○ 学校HP・SNSの有効活用できた。 ○ PTA・同窓会等との連携などを通じて、学校の教育活動を発信することができた。 ○ 獨協コース卒業文集を学校内外に配布、3学期に論文発表会を校内で実施した。また、獨協コースを経て進学した卒業生にも、学校説明会で大学生活に関する話をしてもらった。	A B A A	○ 学校の教育活動、生徒の取り組みをコンスタントに発信し続けることで、本校のもつ魅力を伝え、さらに募集活動にもつなげていきたい。 ○ 学校・保護者・卒業生・地域を情報でつなぎ、教育活動への理解と協力を深めていきたい。 ○ 他校にはない獨協コースの高大連携プログラムについて、学校内外にその魅力を発信していくために、学校HP等をさらに活用していく。